

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	石川 大輔
論文担当者	主 査 橘 俊哉
	副 査 新村 健
	副 査 若林一郎
学位論文名	Relationship between psychosocial factors and objective physical function in special needs school staff members suffering from low back pain(慢性腰痛を有する特別支援学校職員の心理社会的要因と身体機能の関係)
論文審査の結果の要旨 特別支援学校職員の腰痛を有する者を対象に客観的な指標を用いて身体機能を評価し、心理社会的要因との関係について検討した。大阪府下の特別支援学校職員を対象に2016年4月から2018年3月に開催した腰痛予防講座参加者686名のうち、慢性腰痛を有する421名を本研究の対象とした。参加者の疼痛の程度は質問票にて把握し、心理社会的要因の評価にはSTarTBack Tool(以下SBST)を使用した。SBSTの合計スコアが3以下の場合はLow risk群、合計スコアが4以上で心理社会的サブスコアが3以下の場合はMedium risk群、合計スコアが4以上で心理社会的サブスコアが4以上の場合はHigh risk群の3群に分類した。身体機能の評価として、腹筋持久力、背筋持久力、下肢筋力、股関節柔軟性(Straight Leg Raising(以下SLR)、屈曲、内旋、外旋)を測定した。統計解析は、SBSTの評価による3群間で身体機能の測定値を比較した。また、各測定項目のカットオフ値を用いて二値化し、多重ロジスティクス回帰分析にて年齢、性別等を調整し、SBSTのLow risk群に対するMedium及びHigh risk群のオッズ比(OR)と95%信頼区間(CI)を算出した。対象者421名のうち、妊娠している者、SBSTに欠損がある者を除外し、411名を解析対象とした。心理社会的要因による分類では、Low risk群306名、Medium risk群65名、High risk群40名であった。3群間で身体機能を比較した結果、腹筋持久力、下肢筋力は、Low risk群よりもHigh risk群が有意に低かった。多重ロジスティック回帰分析の結果、Low risk群に対するHigh risk群のオッズ比は、腹筋持久力低下(OR:5.47[95%CI: 2.35-12.74])、下肢筋力低下(OR: 3.14 [95%CI: 1.43-6.89])、右SLR低下(OR: 2.65 [95%CI: 1.07-6.55])、左SLR低下(OR: 3.12 [95%CI: 1.20-8.11])といずれも有意に大きかった。心理社会的要因が強いHigh risk群はLow risk群と比較して身体機能が低下していることが示された。本研究の成果は、腰痛有訴者における心因性要素が身体機能と関連していることを解明した有意義な知見であり、学位授与に値すると判断した。	